

東京バッハ合唱団 月報

[第 691 号] 2020 年 1 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 691

January 2020

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

〈仇(あだ)は 今しも退けらる〉(BWV 248/64)

モラルハザードに抗する《クリスマス・オラトリオ》

大村 健二 (団員・テノール)

「モラルハザード」というカタカナは、もともとが経済学や保険業界の用語で、ぼくらが普段使う使い方英語にしたら意味が通じないのだそうです。それでも、現代のまともな日本人には、「倫理の欠如。倫理観や道徳的節度がなくなり、社会的な責任を果たさないこと(「バレなければよい」という考えが醸成されるなど)」(Wikipedia)といった内容の共通理解があるように思うので、ここではその意味で受けとってください。

この年末(2019 年末に書いています)、クリスマスが近づき、年の瀬がせまっても、世間にはあまり晴れ晴れしく、浮き浮きとした空気が流れていない気がします。原因は他に考えられません。倫理や理念の崩壊が、日本国の、とくに行政府の上流のほうで始まってしまったからでしょう(日本国に限りませんが)。

昔から政治屋でいい加減な輩は多くいたのですが、ここ 2,3 年の政権の中枢の失態と、彼らのその不都合を糊塗し、隠蔽し、消去し、創作までする公務員たちの行状は目に余ります。「いったい、どうしちゃったんだ!」と叫びたくなっている人も多いに違いないが、自分も含め、街へ出て声をあげるものは少ない。次の選挙があれば、また同じ顔ぶれを択ぶのでしょうか。経済が良ければいいじゃないか、ということらしい。

* * *

さて、12 月 14 日にぼくらは都内の 2 つの教会で、クリスマスのコンサートを行いました。両会場ともほぼ満席の盛況。内容は次ページ、バス団員・白井均氏の報告に詳しいので、お読みいただきたい。またお聴きくださった方々のご満足の様子は、会場でのアンケート回答(当月報に別添)から生き生きと伝わってきます。あわせてご覧ください。

ぼくが《クリスマス・オラトリオ》を初めて歌ってから、なんと半世紀が経とうとしているようで、びっくりしました。「50 年史」の演奏会記録を練ってみると、1970 年 12 月の第 21 回定期演奏会でした。やはり後半、第 4 部から第 6 部の上演。「コロニー拡充資金募集」というタイトルがついています。ベテスダ奉仕女母の家(深津文雄氏創設)の主催、会場は渋谷公会堂。深津牧師の長男で当時のバス団員だった大慈氏が、聴衆動員と募金を呼び掛けて関係方面を走り回っていたのを思い出します。

今回初めてお歌いになられた団員の方々もそうだったでしょうが、ぼくも最初は、音取りで精一杯で、歌詞の内容を味わう余裕などなかったのですが、その後、前半・後半を、小さなコンサートも含めて、それぞれ 20 回以上は歌ったでしょうか、6 つのカンタータの集合である《オラトリオ》の、各部の姿がようやく俯瞰できるようになってきました。

とくに後半では、救済者イエス・キリストに敵対する諸勢力の象徴として、ヘロデ大王がクローズアップされますが、まさかキリストは、この歴史上の一人物から人類を救うために、降誕なさったわけではありませぬ。2000 年前のパレスティナで、キリストが誕生したという出来事は、今のところ歴史のどこにもその記録を見いだせないようですが、「キリスト以前」に遡って意味を語る聖書(旧約)も、「以後」のぼくらの生きざまを見通している聖書(新約)も、挙げて、すべての解決の根拠がこの出来事にかかっている、と信じるのがキリスト教の信仰なのでした。

18 世紀ライプツィヒ市のカントール職にあるバッハ氏に期待された仕事(公務)、その期待をはるかに突き破って現代のぼくらをも感動させる作曲の一部始終から、バッハの「クリスマス」解釈を見つめてみたいものです。バッハと打ち合わせながら歌詞を書いたとされる詩人ピカンダー氏も公務員でした(同市の収税官・郵政官)。音楽の骨格は、すでにその前年にドレスデン宮廷の主(あるじ)に献呈された声楽作品として用意されていたので、詩人の仕事は、音楽の流れ、すなわち原詞の韻律や抑揚に合わせて、新しい歌詞を創出することです。彼らにとって、ヘロデは何の象徴だったのでしょか? 〈仇(あだ)〉(原詞 Feind=敵)という言葉の背後にある、欺瞞や悲惨や恐怖、憎しみ、苦しみなどの一切が、〈光〉に呑みこまれてしまう(第 48 曲)、というクリスマスのメッセージが、見事に耳に届いて来るではありませんか!

わが国の公務にある方々、聴こえていますか?

月報 2020 年 1 月号 CONTENTS

- ・ 2 つのクリスマス教会コンサート(白井 均) ……p. 2-3
- ・ ご来聴者からのお便り…p. 3 / 来場者アンケート…別添挟込み
- ・ 新年(2020 年)前半の演目一承前一(大村恵美子) ……p. 3-4

2つのクリスマス教会コンサートに満堂のお客様を迎えて

白井 均 (団員・バス)

◆第1部 荻窪教会、14時よりの演奏

12月14日土曜日、三崎町教会に事前の準備の不足を補いに行き、12時30分集合に間に合うよう荻窪教会に駆けつけたら、すでにリハーサルが始まっていました。

素晴らしい工夫で編み出された、限られた空間の会場は、客席もスペースを最大限に確保して、かつ1、2階に配備された18人のオーケストラに、指揮者、オルガンと団員34人と2人のソリストで総勢56名の演奏者(内1名は、コーラスと太鼓の掛けもち)。そこに予約制で集まった聴衆が85名。よくぞ141人もはいたものですね。立体的に並んだ合唱団員は、楽譜も満足に開けないため、全て暗譜状態で、前の人の楽譜を覗き見るほかありませんでしたが、意外によく覚えていて、自分なりに感心しました。でも違うパートの修正歌詞が書き入れられてないため、急遽休み時間に書き入れてくれている内に、演奏時間に遅れてしまい、心配をさせたのも良い思い出です。

カンタータ167番。鳥海先生の柔らかなテノールは、団員の良き模範になりました。さすがプロ。それに続くアルトのレチタティーヴォ、ソプラノとの二重唱は、オーケストラの助けもあり、最高の出来栄であったように思います。クリスマス誕生の前触れとしての167番の洗礼者ヨハネの物語は、次に続くクリスマス・オラトリオの物語に最もふさわしいカンタータでした。



■荻窪教会にて、終演後でのアンコールでは、《クリスマス・オラトリオ》最終曲「仇(あだ)は今しも退けらる」のコーラルを客席も一緒に全員で大合唱。2階ギャラリーには3本のトランペットとティンパニ(写真・上)、コーラスは側面の壁に張り付いて……(写真・下)。写真提供：有限会社パラビジョン・竹内恵氏(次ページも)

<終了報告>

クリスマス教会コンサート 2019

[日時] 2019年12月14日(土) 二部公演

[会場] [A] 14:00、荻窪教会(日本キリスト教団)

[B] 18:30、三崎町教会(日本キリスト教団)

[曲目]

・カンタータ第167番《主の愛を讃えよ なれら》

・《クリスマス・オラトリオ》第4部～第6部より

[演奏]

ソプラノ：光野孝子、ソプラノ・エコー：石井百合子(団員)

テノール：鳥海 寮、オルガン：新妻由加

管弦楽：ARS(コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン)

合唱/斉唱：東京バッハ合唱団、訳詞/指揮：大村恵美子

演奏者総数：55名(うち、団員34名)

来場者数：[A] 85名、[B] 154名

本番になって、その奥深い選曲に、大村恵美子先生の思いが伝わった気がいたしました。

クリスマス・オラトリオ4、5、6部は、本格的なオーケストラ編成で演奏できたのは最高の幸せでした。中でもお祝いを表すラッパと太鼓の音は、会堂いっばいに鳴り響き、この世のものと思えない歌声となって響き渡りました。なんとという幸せ。アンコールでの、聴衆と指揮者との打ち解けた雰囲気の中でのコーラル全体演奏は、すべての人を喜びで満たしてくれました。入退場の自然な形も皆の心に暖かさを引き出してくれましたね。小海牧師の、バッハを通してキリストの愛を伝えようとする姿勢に、共感を覚えました。

◆第2部 三崎町教会、18時30分よりの演奏

綿密に練られた行動予定にもかかわらず、終演時間が伸びたのですが、バスの8人は水道橋の三崎町教会へ、会場作りに駆けつけました。事前リハーサルで準備したおかげで、最小限の時間で全てが整い、後発の人も荻窪教会を片付けてきて、17時にはリハーサルをすることができました。スペースも全員が前に並ぶことができ、会場の客席も十分確保できました。相変わらずの課題として、予約者・招待者をうまく誘導する方法が見つかりません。結果としては、すべて来た人を前からご案内することでうまく行った気がします。受付の応援に来てくださった、団員のご家族の皆様には心より感謝いたします。事務所、控室の管理、受付の案内、お客様の誘導については次回に向けて再検討する必要があると思われました。三崎町教会員の有志が陰で多くの助けをしてくださいました。会場時間前から、次々にお客様がおいでくださり、玄関や2階ロビーでお待ちいただき、そうした場所があったことも幸いでした。合唱団事務局から招待状を送ってくれたおかげで、より多くの方がおいでくださったように思います。出演者のお友達・家族もたくさん、お祝いを持ってお見えになっていました。元団員の方々もいろいろな所から来ていましたね。おかげで客席はほぼ一杯でした

(受付の集計では154名でしたが、もっと多くのご来場があったように思われます)。演奏者が56名なので全体では200名を越えた参加の演奏会になったと思います。たくさんの募金も集まったようですね。アンケートが楽しみです。

この日2度目となる演奏では、皆がひととこで楽譜も広げて歌えたので、自分でも思い切り心を込めて歌えました。オケが素晴らしく、合唱もそれに合わせて相乗効果があったように思います。聞いてくださった方は、また違った受け止め方だったのでしょうか。DVDが早く見たいです。鳥海さん、光野さん、お2人のソロも素晴らしい出来栄であったと思います。特に太鼓の千晶さん〔団員、室田さん〕が、私には一番の貢献人に思え、感激しています。アルトのパートでは皆を引っ張り、次には太鼓に飛び移り、見事にティンパニーの役を果たされました。影では楽器の調達、運搬、セットアップ。そのご苦勞を高く評価しています。バスのパート練習での特訓指導もすべて、快くやってくさいました。

やはりバッハは教会で演奏するのが最も似合いますね。お金儲けや、名声を求めるのではなく、人の心に神様の愛をお伝えするのに最もふさわしい音楽だと思います。このために、私も教会と共に働けるようにたくさん努力していきます。プロの音楽家との演奏も素晴らしいのですが、今回のように、プロもアマも皆で協力しあって、より良いものを作り上げてゆく喜びをもっと味わいたいです。バッハを歌うことからいただいている喜びを、一人でも多くの人に分かち合って、より高尚な思いで人生を楽しみたいです。私の属する三崎町教会で、これからも演奏してください。そのためにはもっと教会の人にも理解をしてもらえるように頑張りますから。

最後に、天狗酒場の打ち上げでも大いに盛り上がったARSの皆さん。本当にありがとうございました。こんな素晴らしい出会いは、奇跡としか言いようがありません。打ち上げを見事にまとめ上げてくれた相良さんにも感謝。次回も美味しい酒を飲みましょう。未だ酔いの覚めていない団員が何人かいるようですね？



■三崎町教会にて。ゆったりとした会堂に、バッハが伸びやかに響きわたりました。熱気の午後の会場と、両会場にお越しの方も多かったようです。

<ご来聴者からのお便り>

●昨夜は美しい教会での迫力ある演奏、アドベントの夜に祝されたひとときを過ごすことができ、感謝でした。格調高い文語訳、キリスト誕生への期待、緊張、喜び、そして今もなお私たちを照らす主の光が音楽とともに心に満ち渡り感動いたしました。素晴らしい演奏をありがとうございました。伊豫部安代

【団員・B加藤氏宛てメールの転送】

●元団員・タッシーこと高橋恵樹です。クリスマスおめでとうございます！ 先日は久しぶりに、大村先生ご夫妻のお元気な姿を拝見することができまして感謝です。経堂北教会における22日・日曜のクリスマス礼拝の聖歌隊サービスで、大村先生の楽譜からクリスマス・オラトリオの5番のコラールを奉唱いたしましたので、音源を添付して送信します。FILE: いかに迎えん、いかに見えん(191222).wav では、よいお年をお迎えください。

【事務局宛てメール、2019/12/25】

<別添：会場アンケート回答もご覧ください>

聖霊降臨祭カンタータと3曲のコラール・カンタータ — 新年(2020年)前半の演目

(前号からつづく)

大村 恵美子 (主宰者)

1. カンタータ第113番《イエス 高さ宝》

Herr Jesu Christ, du höchstes Gut BWV 113

2. カンタータ第93番《ただ主に依り頼み》

Wer nur den lieben Gott läßt walten BWV 93

3. カンタータ第78番《イエス わが心を》

Jesu, der du meine Seele BWV 78

【初演】三位一体節後第14日曜(1724年9月10日)

【福音書】ルカ17:11-19(イエス、らい病人を癒す)

【歌詞】ヨージ・リスト「イエス わが心を」(1641)【74】を基本コラールとするコラール・カンタータ。1)7)原詞、2)~6)原詞書き換え。

【編成】独唱 SATB、合唱、hn、fl、ob2、弦、通奏低音(25分)

1)コラール合唱:「イエス わが心を」(コラール第1節)。ト短調、3/4拍子。コラール旋律を、ソプラノ声部とホルンが1フレーズごとに奏し、バス声部はラメント・バス(半音下降で歎きを表わす)の主題を34回も反復するパッサカリア形式。アルト、テノールの2声部は、その「ト」→「ニ」の半音下降句(4分音符)で対位的内声を奏する。声楽・器楽ともに活発な16分音符などのパッセージを増して、最後の「主はわが宝」まで盛りあげてゆく。緻密で剛健な冒頭曲。(6分)

2)二重唱(ソプラノ/アルト):「急ぎゆかん 弱くともたゆまず」。変ホ長調、4/4。これがバッハの全音楽の中で、私たちの最愛の曲の中に入る二重唱で、楽器はヴァイ

オリン（終始4分音符を貫く）と通奏低音（終始8分音符）とで、たゆまぬ足取りを表しながら、「急ぎゆかん 弱くともたゆまず」とけなげに従いゆく弱い人間の声を支え、ダ・カーポ中間部で「み顔仰ぐはいと楽し」と喜ぶ、引用福音書の中では病人の歌〔月報 688号（2019/10）の小海氏稿「<らい>、カンタータの中の差別語・問題語」参照〕。無窮動のように、止まらない一体感に、ゆすぶられない人はない。（5分）

3)レチタティーヴォ(テノール):「ああ われ罪の子なり」。病める身に悩み、かつ罪深き自分の業を告白して、主の赦しを切望する、痛々しい叙唱。（3分）

4)アリア(テノール):「罪を拭うなが血は」。ひきつづいてテノールが、イエスの贖いによって立ち直る、毅然とした戦いを歌い上げる。どれほど挑む悪の力があるとも、イエスの守りを信じて勝ち抜けるのだ。フルート独奏も、前進をうながすようにリズムを刻んでくれる。勇壮なト短調、6/8。（4分）

5)レチタティーヴォ(バス):「み傷 いばら 葬り あざけり」。主イエスの十字架に贖われた身は、最後の審判にも恐れず、神は祝福を授けてくださる。つねに寄り添われるイエスに、すべてをゆだねよう。（2分）

6)アリア(バス):「わが心を鎮め」。深くむくわれる主に、われらも確く信じ、その一体となった際には何物も入り得ないだろう。オブリガートのオーボエも、決然としたバスの歌に合流したように、後奏の最後まで生き生きと活躍する。ハ短調、4/4。（4分）

7)コラール:「弱きわが心 強めたまえや」。ト短調、4/4。全員で、リストのコラール第12節（最終）を、明確な4声体コラール形式で提示する。当カンタータ、当合唱団も複数回演奏を重ねて来たが、この終結コラールが鳴り終わると、しばらくの間ジーンとなって、客席を立つことが出来なかった、と伝えてくださる聴衆が何人も居られたのを、いつも思い出す。（1分）

4. カンタータ第184番《待ち望みたる 喜びの光》

Erwünschtes Freudenlicht BWV 184

【初演】 聖霊降臨祭第3日(1724年5月30日)

【福音書】 ヨハネ 10:1-11(私は善き羊飼ひ)

【歌詞】 作者不詳、BWV184aの書き換え。5)はA.v.ヴィルデンフェルスのコラール「尊きみ言葉」(1526)第8節

【編成】 独唱 SAT、合唱、fl2、弦、通奏低音(23分)

若いケーテン時代に、レーオポルト侯誕生日用か新年用に作曲されたもの(BWV184a)を、1724年ライプツィヒで教会礼拝用に転用し、それをさらに1731年の再演にあたって改編した。歌詞も、「善き牧者イエス」を讃美する内容となり、フィナーレの牧歌的ガヴォットの前にコラールも加えられて、聖霊降臨祭の喜びにふさわしい形が整えられた。

1)レチタティーヴォ(テノール):「待ち望みたる 喜びの光」。ト長調、4/4。合唱で始まるカンタータ冒頭が一般であるところを、長い叙唱(レチタティーヴォ)をもって、

この聖霊降臨日の趣意「われは善き羊飼ひ」(ヨハネ福音書 10:1-11)を解き明かす。(3分)

2)二重唱(ソプラノ/アルト):「愛(め)でられたる 幸なる群れ」。ト長調、3/8。「ああ 急ぎみ前に集え」というテノールの呼びかけ(1)に答え、「幸なる群れ 来たりてイエスを讃えよ」と。フルート2本の絢爛たる速いパッセージを伴って、女声が明るい歌を歌う。ここにキリストを牧者とする教会が成立した瞬間といえよう。(6分)

3)レチタティーヴォ(テノール):「喜べ 撰ばれし者!」。このカンタータにはバスが登場しない。イエス・キリストの十字架の死、昇天、そして聖霊降臨のこの日には、もっぱら、教会として生まれた群れが、イエス(一般に声部はバスに当てられる)に向かい、全曲にわたってお願ひごとを反復する。「悩みの時、見棄てたまわされ」、「従いゆく者を…滅ぼしめされ」、「安けく去らしめよ」(5)、「賜え、み言葉をわれらに」、「護りたまえ…命の限りを」(6) etc. (3分)

4)アリア(テノール):「聖(きよ)められし群れ」。ロ短調、3/4。長いレチタティーヴォに続いて、新生のキリスト教会の榮譽・誇りを、栄冠のような独奏ヴァイオリンのオブリガートに色どられながら、ポロネーズのリズムで歌いあげる。(5分)

5)コラール:ニ長調、4/4。改革者ルターの信奉者でアウグスブルク市参事会員、ヴィルデンフェルスのコラール「O Herre Gott, dein göttlich Wort」(おお 主なる神よ、汝の聖なるみ言葉は)(第8節)。「主よ 悩みのとき 見捨てたまわされ」に始まり「主によりて われ 安けく去らしめよ」と厳粛な死への祈りで閉じる。(2分)

6)合唱:「慰めなる善き牧びとよ 賜え!」。ト長調、2/2。コラールで終わらず、また牧歌に戻って、2拍子のガヴォット舞曲調で、生命力溢れるフィナーレを展開する。晴れやかで、楽しげなフルート2本のオブリガート。(3分)

追加の《コーヒー・カンタータ》については、次号に予定。

次回公演：特別演奏会（2020年前半）

< 曲目 >

カンタータ第113番《イエス 高き宝》
カンタータ第93番《ただ主に依り頼み》
カンタータ第78番《イエス わが心を》
カンタータ第184番《待ち望みたる 喜びの光》
追加：《コーヒー・カンタータ》

< 日時/会場 >

- 1) 信州コンサートツアー（野尻湖合宿）
 - ・8/6（木）野尻湖・神山教会（NBA国際村）、午後4時
 - ・8/7（金）軽井沢追分教会、午後2時30分（予定）
 - ・8/8（土）小布施・おぶせミュージアム、午後2時
- 2) 都内と近郊の皆様に向けては、上記コンサートツアーの前後に、教会を会場にしての演奏会を企画中。

※上記の公演に参加する新規団員を募集しています。
※新年の練習開始：2020年1/6（月）、1/11（土）より。

クリスマス教会コンサート 2019

アンケートご回答

2019年12月14日(土)、二部公演

荻窪教会

<演奏全般についてのご意見・ご感想>

- ・間近ですてきな音楽が鑑賞できて幸せでした。遅く来たので2F席で残念でした。
- ・迫力がある。
- ・すばらしい演奏でした。皆さん美声でおどろきました。
- ・とても暖かい演奏会でした。皆さん長い間、歌いつづけていらした方ばかりだったのでしょう。後半から声もよく出てこれ、コーラルが素晴らしかったです。福音史家=情景がよく浮かんできました。
- ・狭く、響きのある礼拝堂では、大きな音・声量は必要ないのではないのでしょうか。弱音を大切にすれば、ちょっとした大きさの声で十二分に表現できると思うのですが。
- ・歌詞を見ながら、解説文を読み、じっくり聴くことができました。ソプラノ・アリアすばしかったです。管弦楽のアンサンブルもこちよく聴かせて頂きました。
- ・男声コーラスがきれい。
- ・すばらしいハーモニーでした。本格的な演奏が聞け、感動しました。ありがとうございます。
- ・初めてでしたが、とても良い時間でした。
- ・こんなに直近で演奏や合唱を聞かせて頂くのははじめてで、とても良かったです。
- ・楽団、合唱団の皆さんの間近で演奏を楽しむことができ、光栄でした。まるで貴族が宮廷のサロンコンサートに招かれたかのようにでした。
- ・30年ぶりくらいにバッハの曲(生演奏)にふれられて涙が出ました。なぐさめられました。
- ・楽しかったです。
- ・フルオケ、ソロの方もとても迫力があり、すばらしかったです。

・レチタティーヴォのアルトは、もともとソロで歌う?? ソロも合唱も美しい響きでした。

<とくに、日本語演奏について>

- ・日本語だったので意味がよくわかりました。
- ・日本語なら歌ってみたいと思っています。合唱はやっておりますが、バッハはまだです。
- ・日本語で歌う意味を認めない。歌っているのを聴いても、日本語の内容はわからない。音楽としては原語の方が自然。
- ・聞いているだけだと分りにくいが、文字で書かれたものがあるので参考になる。
- ・とてもわかりやすかったです。ただ一部でも原語が入ると雰囲気味が味えるように思います。
- ・日本語の演奏がよくわかりました。日本語演奏だと、音楽に集中でき、良いと思いました。
- ・合唱だけでなく、歌曲の場合でも、日本語の歌詞が聴き取りやすいということはほとんどありません。詞の意味内容を、発声をとおして聴く人に伝えられるかどうかだと思います。
- ・個人的にはオリジナルの方が好きだが、意味の理解には役立つのでこちらも良いです。
- ・演奏が説教になっています!
- ・使っている日本語がむずかしいです。原語よりは内容がわかるのはうれしいですが、微妙なところがわかりません。何が“否”なのか、“べしや”とはどういうニュアンスなのか?? で残念でした。でもふつうのX'masコンサートより、神をたたえる気持ちを身近に感じられて良かったです。
- ・聖書の言葉が歌詞のため、なじみにくい点はあるものの、クリスマスにふさわしく、イエス降誕のエピソードがよくわかりました。
- ・心にしみわたりました。8月に主人[元団員]が亡くなり、バッハを歌いたがっていたので、なおさら心にしみました。
- ・わかりやすい。
- ・内容が理解できました。
- ・日本語歌詞も良いと思います。

<その他、本日の運営、会場等について、何でも>

- ・この会場は初めてです。家から近いので一度来たいと思っておりました。
- ・同じ曲目を二つの会場で演奏するとは思わなかった。分けて歌うと思った。15時10分終り予定が大幅に遅れた。
- ・楽器の後ろにコーラスが立つのは無理だったのでしょうか？素晴らしいXmas プレゼントを頂き、ありがとうございました。
- ・狭いけれど暖かい雰囲気、とても良かったです。
- ・今回の演奏には合っている会場です。
- ・とても心温まるコンサートでした。クリスマスに教会でバッハが聞けて、うれしかったです。
- ・一緒に歌えて良かったです。
- ・クリスマス間近に、教会でのクリスマスコンサートにいられて、とても嬉しく、クリスマスの雰囲気を一足はやく楽しめました。教会全体に美しい音色が響き渡っていました。オケに合わせて聴衆と歌う企画も良かったです。
- ・少し狭くはありましたが、温かい雰囲気良かったです。
- ・第6部のテノールのアリアが省略されたのが残念。

三崎町教会

<演奏全般についてのご意見・ご感想>

- ・満足！いつもそうです！
- ・楽しいひと時を過ごしました。
- ・オーケストラと合唱団のボリュームアップされた演奏が、豪華絢爛なバロック音楽の雰囲気を会堂いっぱい満たし、クリスマスにふさわしい、みごとな演奏でした。
- ・ご招待いただきまして、ありがとうございました。幸せな時間でした。
- ・素晴らしい合唱、オーケストラ、感激いたしました。最後に合唱を皆様と一緒にご指導下さり、楽しく心に残りました。有難うございました。[両会場に会場]
- ・とてもバッハが身近に感じられる演奏でした。
- ・楽しかったです。
- ・身近に聞けて、体で感じました。
- ・美しい歌声が心にひびきました。
- ・心洗われる聖なる体験をさせていただいた。演奏者皆さんに敬意を表する。
- ・素晴らしいコンサートでした。
- ・今日は素晴らしい演奏をありがとうございました。団員の皆様、お体に気をつけて、今後も活動を長く続けてください。
- ・オーケストラにも合い、素敵だった。
- ・久方ぶりにイエス降誕、教会のミサ曲を聴かせて頂き、心が洗われたようで、聞きほれていました。素敵なひとときをありがとうございました。
- ・すばらしかった。
- ・素晴らしい！
- ・コーラス、オーケストラがバランスよく演奏されていたと思います。
- ・選曲がとても良かったと思いました。皆様の歌声に感動しました。ありがとうございました!!!
- ・はじめての三崎町教会のすばらしさに驚いています。田舎からまいりましたが、時には良い環境にひたれる喜びを体で受けとめて帰ります。
- ・時節にあって、ARSの伴奏でChoralを味わうことの幸せ！それにしてもChoral 64には恐れ入った！
- ・クリスマスらしい選曲で、クリスマス・オラトリオの前半も是非聞きたい。
- ・演奏の方がたくさんで楽しい。
- ・素晴らしかった。
- ・演奏・合唱ともにすばらしかった。主の誕生を待ち望むアドベントの時、豊かに過ごすことができ感謝です。
- ・ハーモニーが美しく、気持ちがかめられています。
- ・教会で聴くことができ、心にしみました。
- ・教会で間近できけて感動しました
- ・すばらしかったです。エコーがあるところ、楽しかったです。器楽もよくて、歌も生き生きして感動しました。
- ・昨年末より数倍素晴らしかった。

- ・すばらしかったです。光あふれるお花畑にいるようでした。涙が出てきました。ありがとうございました。
- ・大変よかったです。
- ・とてもすばらしい時間をありがとうございました。
- ・とてもすばらしい演奏を聞かせて頂き、ありがとうございました。
- ・オーボエダモアレ、トランペット（特にトップ）がすばらしかったです。
- ・合唱の方々が高齢にも拘わらず、素晴らしい発声で（音量ともに）、敬服致しました。
- ・前半中ほどまで音がバラバラに聞こえていましたが、中程から揃って、楽しく聴くことができました。
- ・全体の合唱、ソプラノ、テノールがすばらしかった。管弦楽団がよかった。迫力があつた。
- ・コラールの楽譜をつけていただければ、いっしょに歌えたと思います。初めてでは難しかったです。
- ・ホールでの貴合唱団公演は何回か聴いています。教会堂での雰囲気、音響は、バッハを聴くのに真に適していると思いました。オラトリオ No. 42 コラール、言葉もよく聴こえ、良かったです。
- ・ミサ曲の荘厳に感激しました。

<とくに、日本語演奏について>

- ・ドイツ語の分からぬ日本人は多く、福音はその国の言語でないと伝わりません。
- ・とてもわかり易くて良いと思います。
- ・日本語訳のおかげで、バッハ合唱団の演奏を聴きながら、私の頭の中はオペラの場면을勝手に想像しています。
- ・パンフレットの日本語訳詞、そして楽譜もついていてわかりやすく、テノール・ソプラノの方々の日本語が素晴らしかった。理解が深まりました。たいへん有難かったです。
- ・今までよく聴いていたつもりでしたが、内容が聖書に照らして理解できました。
- ・あらすじが理解できました。

- ・内容がよく分ってよかったです。
- ・内容がわかりやすく良いと思う。
- ・遠い記憶が蘇みがえる。石田友雄・一子ご夫妻が創立した「バッハの森」を訪ねたのはもう 30 年近く前のことか。再びバッハに巡りあえた幸い。
- ・なかなか日本語の演奏は聞かないため、面白かったです。
- ・意味がわかってよかった。
- ・いつも日本語の演奏をきかせて頂いています。意味が分り、楽しいです。
- ・わかりやすくとても良かったと思います。
- ・わかりやすい。
- ・バッハの音楽の意味が分かるような気がします。
- ・日本語なので、とても入ってきました。
- ・伴奏の音色とハーモニーに、日本語訳があり、内容が自分の身に伝わってくるのに大いに役立っていると思います。曲のみでは理解が及ばぬゆえでもあります。大村先生の頭脳活動に頭が下がる思いです。
- ・日本語なのでよく分かり、嬉しいです。
- ・第Ⅳ部 Arie 39「べしや」（2か所）：古語文法を習ったのは 40 年前だが、反語の助詞「や」は形容詞活用語の連体形に接続する（即ち「べきや」）ではなかったか（詠嘆の助詞「や」は終止形接続と記憶）
- ・大変わかりやすい。
- ・意味が理解できて良い。
- ・良かった。
- ・分かりやすかったです。
- ・日本語訳で歌われることに少し心配もありましたが、原義を損なわぬばかりか、格調高い文語の美しさに安心し魅了されました。
- ・少しつらいところあつた。
- ・意味がわかりながら聞けて良かったです。
- ・どちらでも良いと思う。
- ・わかりやすく、楽しめました。
- ・意味がわかって興味深かったです。
- ・言葉がよくわかり、感動しました。
- ・バッハの曲を日本語で聞くと、意味が伝わってきて良かったです。

- ・よく理解できて、よいと思いました。(プログラム、月報の大村先生のご解説をじっくり読ませていただき、勉強したいと思います。特にこの曲の「歌詞」についての著書が)
- ・意味不明で原語で聴くよりも、story も理解しつつ聴けて良いと思います。
- ・いつもは原語版で聴きますが、訳語演奏もとても良いと思う。大村先生の訳される作業が大変だなといつも感じています。
- ・よかった。原語で歌うと内容がまったく分からないから。クリスマスのストーリーが良く分かった。
- ・ソロは良く言葉も分かりました。コーラスの言葉が今ひとつ濁ってしまいます。(原語でも同じだと思います。) プログラムの歌詞を見ながらだと良く分かります。大村先生の長年の御努力と思います。
- ・良く理解できました。

<その他、本日の運営、会場等について、何でも>

- ・広くてどの席も自由で全く OK です
- ・どのような会場であっても、バッハの曲を聴くときは、いつも「ゲツセマネの祈り」の場面が浮かぶのです。照明をグリーンと落として演奏するのは無理でしょうか。私は神山教会のような明るさが好きです。
- ・教会堂一杯の演奏、心身に響き、一体になり幸せでした。日本語訳はとてもむづかしく、さすがと感激いたしました。さすが先生と存じました!!!
- ・素晴らしい演奏
- ・楽器演奏の迫力がありました。
- ・場所が都心で、分かりやすく良いです。
- ・御準備、感謝です
- ・教会での演奏会は心が洗われます。
- ・ありがとうございました。
- ・素晴らしい会場で、無料で聴けるのは素晴らしいです。良い響きで、オーケストラも合唱も、もちろんソリストも素敵でした。クリスマスの時期にバッハを堪能できました。
- ・素晴らしかったと思います。

- ・小田原から来ました。途中から入場させて下さり、ありがとうございました。
- ・素敵な会場。
- ・大村先生はじめ、全力投球で活躍されている“姿”に心を揺さぶられております。いつも月報で知るかぎりですが、すばらしいメッセージに感動し、共感させられております。感謝です。
- ・とても良い会場でした。
- ・時節に相応しく、Orgel ありの礼拝に合ったカペラで、文句なし。来場者数もピタリで、予約受付のお蔭で席の心配も無用で。和太鼓も各々単一音程だと思うが、いろいろな音階のものがあるのだろうか？
- ・忙しい 12 月の中で、心がなごみます。
- ・問題なかった。
- ・小さいながら、音の心地よく残る会場と感じました。程よい距離感が耳に心地よく、楽しませていただきました。
- ・歌詞と解説とともに聖書の説明があり、分かりやすかったです。ありがとうございます。
- ・教会内のコンサートなので、雰囲気がとても良かったです。
- ・すばらしい場所です。
- ・ご苦勞様、良かったです。
- ・とても良かったと思います。
- ・初めての会場でしたが、大変わかりやすく、安心しました。
- ・会場の雰囲気、係の方の対応、とても良かった。
- ・音響効果も非常によく、うってつけの会場でした。
- ・気持ちの良い会場で、嬉しく思いました。
- ・昨年も伺いましたが、客席とオケ、合唱、ソリストの方々が近くていいと思います。
- ・音響が素晴らしいし、今日の演奏は教会だからこそと思った。
- ・好印象でした。
- ・会場の地図をもう少し詳細にしてください。夜でわかりにくかったです。